

カラハナソウ *Humulus lupulus* L. var. *cordifolius* (Miq.) Maxim. ex Franch. et Sav.

アサ科 Cannabaceae

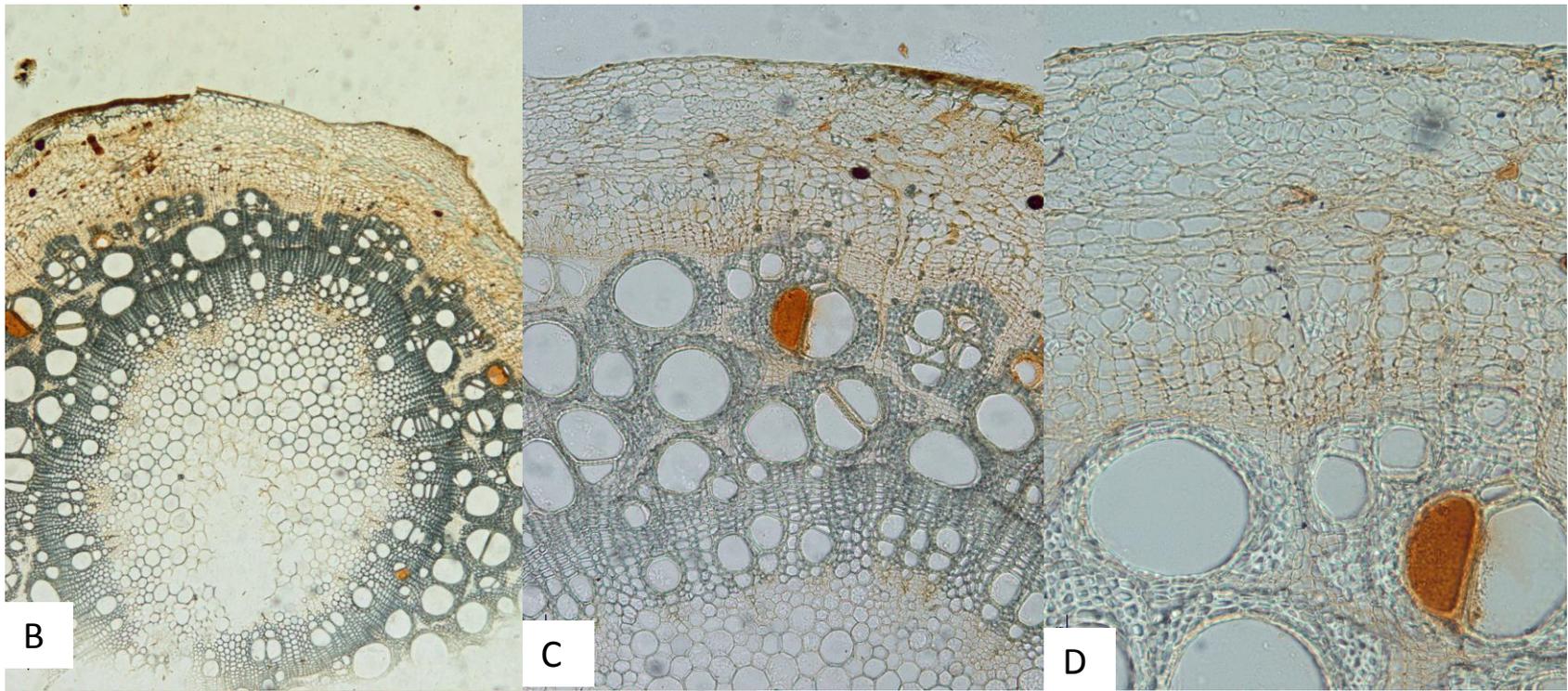
1. 利用対象部位：樹皮

2. 組織形態：

カラハナソウの蔓（茎）は断面多角形で、一次組織分化と同時に二次組織の形成が始まる。表皮は1細胞厚でクチクラは薄い。数細胞層の下表皮の下に繊維細胞群（靱皮繊維）が断続的に円周状に形成される。形成層は一次組織の分化が終了するのと同時に活動を始め、二次木部、二次篩部を形成する。二次篩部には繊維細胞塊が分化してくる。このようにカラハナソウの茎には2重の繊維細胞塊があるが、いずれも量は少ない。

利用例：なし

遺跡出土遺物：なし



A:カラハナソウの茎の横断面。**B~E:** 茎の横断面の拡大。**B:** 一次木部はほぼ環状に形成、二次木部は部分によって形成量が異なる。**C:** 二次木部は木化した部分の中に木化していない部分が混じる(淡褐色の部分)。**D:** 表皮の少し下に一次組織の繊維細胞群があり、それより下の柔組織等を挟んで、画面中央の形成層帯の少し上に二次組織の繊維細胞群がある。